

告 辞

本日ここに、平成二十年度、東京農工大学大学院、および連合農学研究科の秋季修了式を挙行することになりましたことは、誠に喜びに堪えません。

本日、学位を取得されましたのは、課程博士三十一名、論文博士六名、課程修士二十三名の計六十名であります。晴れて学位記を授与されたすべての皆さんに、心よりお祝い申し上げます。また、ここには参加されてはおりませんが、この日を待ちわびておられたご家族の皆様をはじめとした関係各位のお喜びもひとしおと思います。心よりお祝い申し上げます。新たに修士あるいは博士になられた皆さんには、これまで皆さんを支えてこられたご家族やご友人、先輩、ご指導をいただいた先生方などに対して、改めて感謝の気持ちを思い起こしていただきたいと思います。

さて、博士課程を修了された皆さんはこれからひとり立ちした研究者・技術者として社会で活躍されます。修士課程を終えられた方々の多くも社会に出て活躍される方が多いと思います。これまでに習得した専門知識に益々磨きをかけ、その分野でのスペシャリストとして成長されるように大いに期待しております。

皆さんは本学の基本理念をご存知のことと思います。MORE SENSE です。美しい地球持続のための教育と研究をいっているわけです。現在の社会は深刻な問題を沢山抱えております。地球規模の課題としては温暖化、環境破壊、エネルギー不足、食料問題、などです。以前は人間の活動を含めて、地球はうまく調和が保たれ、自然に物質などの循環も保たれておりました。それが人間の活動が限度を超え、その循環の輪をいたるところで破壊するようになったことから生じたものです。地球温暖化や環境問題、食料問題など、二十一世紀が抱える大問題の多くは本学が柱としている農学と工学およびその融合分野での努力により、技術的に解決できるものであることにお気づきでしょう。皆さんの専門を通して貢献できる範囲は非常に広いのです。皆さんの進まれる道はいろいろですが、それぞれの専門領域を通して課題の解決に寄与され、持続的な地球環境の回復に大きく貢献されんことを期待したいと思います。

皆さんがこれから活躍される社会は厳しい競争の社会です。自立した主体的な行動が求められるでしょう。皆さんが大学で学んだものは、多くの場合、これからの社会での活躍に必要な知識そのものではありません。しかし、それは仕事を進める上で必要な知識を自ら学び、習得する力を与えるものなのです。仮に学んだものが仕事に直接的に役立つ専門知識であったとしても、それは数年で陳腐化してしまうでしょう。学ぶことは学位取得で区切りが付くわけではありません。これからは、仕事をしつつ学ぶ毎日ということです。現代の科学技術上の多くの問題は複合的です。一つの製品を開発する場合を考えても、それを作るのに必要な資源やエネルギーの問題、製造過程での廃棄物の問題、製品が社会へ及ぼす影響やその役目を終えて廃棄あるいは回収される過程まで含ん

だ環境問題など、一つの専門分野をはるかに超える課題を考慮せねばなりません。すなわち、製品開発に直接的に関わる深い専門知識が必要なことはもとより、製造から廃棄に到るまでの過程に横たわる種々の問題を考えると、幅広い知識に裏打ちされた総合的な判断力が求められることとなります。皆さんには幅広い基礎知識に裏打ちされた高度な研究者・技術者として成長していただきたいと思います。そうなるには日々の学習が必須です。大学を離れても、日々学ぶ心を持ち続けて下さい。

「教育とは自分の頭で考えることを教えていくことだ」といわれます。本学の教育の理念である課題の探求能力と解決能力の育成はまさにそのことを指しているわけであり、本日学位を授与された皆さん、皆さんはこれから色々な課題に遭遇するでしょう。その解決法を自らの頭で考え、そして行動することが求められます。その積極性を常に見失わないで下さい。

本日の修了生の中には、十四カ国から三十八名の外国人留学生が含まれております。留学生の皆さんは異なる言語、文化、習慣の壁を克服し、学位を取得されました。今日までの努力に対して深く敬意を表します。母国に帰られる方々には、日本で学んだ専門知識を生かし、自然環境との調和のとれた母国の発展に大いに寄与されることを祈っております。皆さんには母国に戻ってからも、本学との関係を密に保っていただきたいと思います。中華人民共和国には中国同窓会が既に組織されており、定期的な交流の機会もありますが、それ以外の国では同窓会の組織化はこれからです。できれば皆さん自らが先頭にたって同窓会を組織して本学との連携を深める中核となっていただきたいと思っております。

本学は世界各国からの留学生が学ぶ国際感覚あふれる大学です。皆さんには在学中に多様な国からの多くの友達と知り合うことができたことと思います。その国際的な人的ネットワークは皆さんの宝物になるでしょう。今は、通信手段、交通手段が飛躍的に発達し、空間的、時間的距離が劇的に縮まってきております。一方では、問題解決への取り組みが国際的広がりを持つものになり、一国の枠を超え、世界各国との相互理解と相互協力の下で進めることが必須という状況になってきております。皆さんが築いてきた人的ネットワークはそのような場合に大きな力となるでしょう。

最後になりましたが、今後とも皆さんが心身ともに健康で、これまでに修得された学識と技術を存分に活かして活躍されますよう祈念し、また、本学のさらなる発展のため、同窓会活動などを通じて、ご支援くださいますようお願い申し上げまして、ここに告辞といたします。

平成二十年九月十七日

東京農工大学長 小畑 秀文